

第6回レスキューロボットコンテストにおける 競技会場等の変更点

～ 参加経験のあるチームへ向けて～

主な追加, 変更事項

•2チームが同一実験フィールドで競技

- 1 / 6スケールに変更
- 2チーム間の連絡手段の導入
- 左右がまったくの対称とはならない

•より現実に近い実験フィールドを想定

- 道路幅の変更, 格子状でない道路の設置
- 実験フィールド内での高低差
- 高低差間をつなぐ坂道
- 道路上に存在する歩道橋

•レスキューロボットによる探索

- ヘリテレのズーム倍率、移動可能な場所の制限
- ダミヤン設置エリアの増加

•予選の導入

- レスキューロボットを実際に多くのチームに製作して欲しい
- タイムトライアルではなく, 一定時間内の救出数で評価
- 同数の場合は, 書類審査での評価を反映

書類審査で
18チーム



予選で
10チームに

変更なしの事項

- 路上ガレキ, ブロック内ガレキの寸法等
- レスキューの評価方法 (ポイントの算出)
- 反則行為の内容

実験フィールド概略

9000 × 9000mm

ロボットベース
(1200 × 1200mm)

隔壁

高台

道路
(幅700mm)

隔壁

コントロール ルーム

ロボットベース

ベースゲート
(幅700mm、
高さ600mm)

歩道橋
(高さ600mm)

エリア

坂道 (20%の傾斜)

ブロック
(道路に囲まれている)

道路幅 4m
高さ制限 3.6m

レスキューロボットによる探索

•ヘリテレカメラのズーム倍率を制限

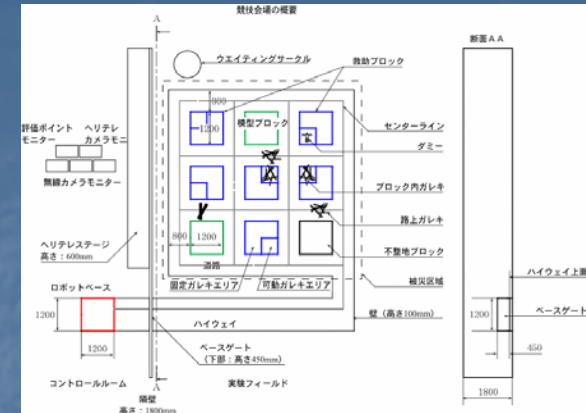
ヘリテレカメラの映像に頼った救出活動を少なくするため、ズーム倍率に制限を設ける。

•ヘリテレの移動可能範囲を制限

フィールドの1辺すべて移動可能なヘリテレステージから、一定範囲しか移動できないようにする。1フィールド化によるフィールドの大型化、ズーム倍率の制限により、ダミヤンの場所によってはヘリテレのみの映像では救出が難しくなる。

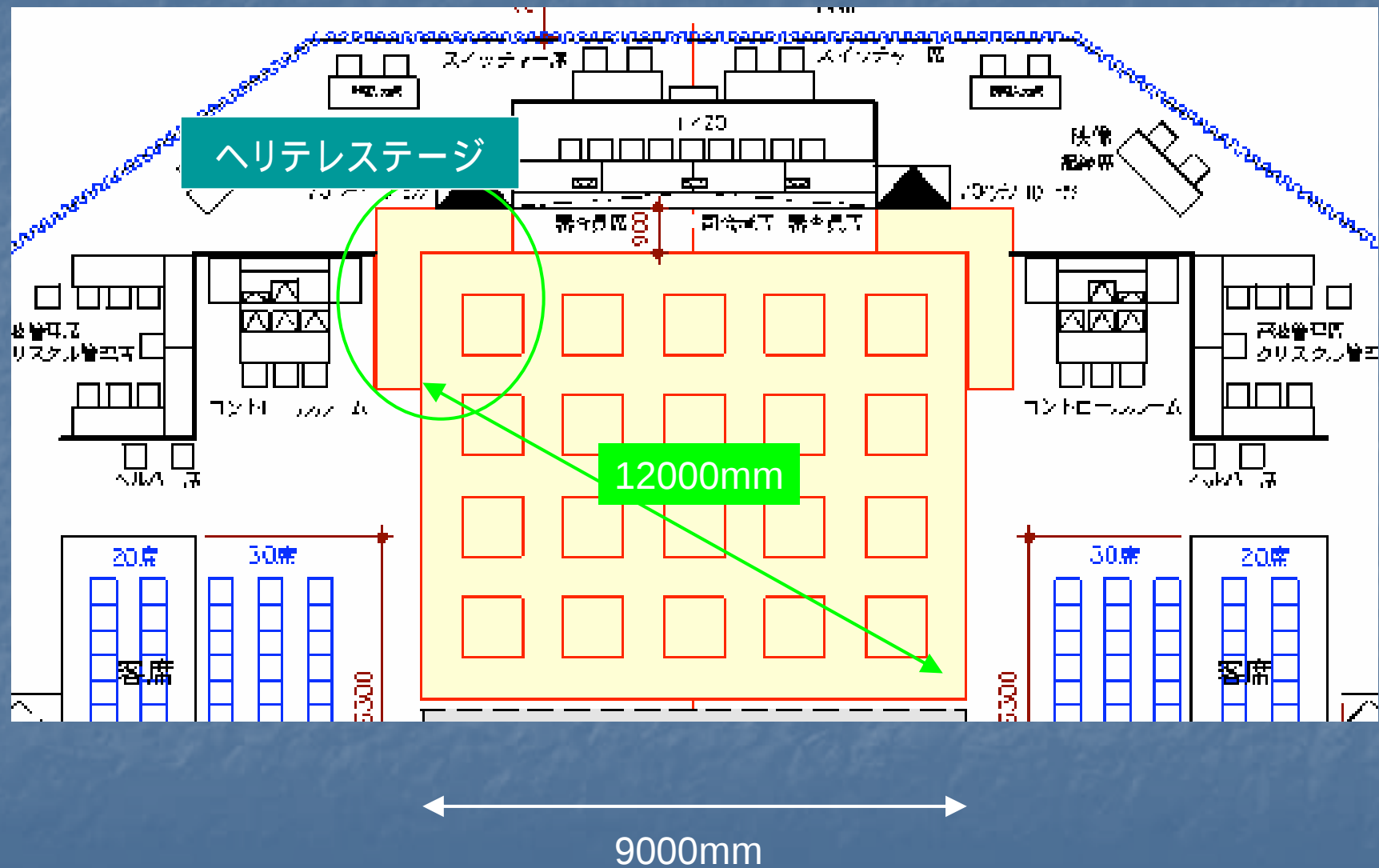
•探索するエリアの増大

第5回までは、9ブロックのうち6ブロックの1 / 4のエリアのみが探索対象であった。第6回では、道路以外はほぼ探索するエリアとする。ただし、複数のエリアからなり道路で囲まれた領域をブロックとし、探索するブロックを指示する。



実験フィールド案

中のブロックは、前回との比較のためであり、
ブロック、道路の配置は異なる



別添による追加情報予定

- ・別添 競技会場の概要
設計ができ次第、公開する
エリアの大きさも示す
ブロック内のエリア数、道路は、一例として示す
ヘリテレステージも示す
- ・別添 バンププレート
第5回と同様のものを用いるため、変更予定なし
- ・別添 坂道
20%程度にすることは、ほぼ決定
詳細については設計ができ次第、公開する
表面材質も公開する(板ではなくある程度グリップ可能な素材を検討)
- ・別添 歩道橋
桁下は600mmにすることは、ほぼ決定
詳細については設計ができ次第、公開する